

No. J2320

ベトナム戦争下の北ベトナムの実態に関するメディア史的考察—日本電波ニュース社のフィルム映像を中心に

東京大学大学院学際情報学府 院生
朱子奇

ロシアによるウクライナ侵攻やパレスチナとイスラエル問題など、テレビは報道機関として毎日のように世界各地の衝突・戦争を報道している。ベトナム戦争は初めてテレビによって伝えられた戦争と言われ、テレビによる戦争報道の原点とも言える。その報道姿勢はのちの戦争報道、あるいはテレビジャーナリズムにも影響を与えていたのではないかと考えられる。しかし、日本におけるベトナム戦争報道に関する研究の中で、テレビ報道を対象とした研究はまだ非常に少ない。当時のフィルム映像の保存と公開が進んでいないのが最も大きな要因である。

本研究は、テレビはいかにベトナム戦争を報道してきたのかを北ベトナムの視点から議論する。ベトナムが南と北に分断される中、日本のテレビメディアはアメリカ側である南ベトナムを中心に取材してきた。一方、外部の番組制作会社（テレビニュース通信社）である日本電波ニュース社は独自のルートで北ベトナムを取材し続けていた。その取組はベトナム戦争報道に大きな意義を持っていると考えられる。

一年目では、国内での資料収集・映像視聴と、現地ベトナム・ハノイでの調査を実施した。2023年8月、8日間現地ハノイに滞在し、ベトナム戦争関連の博物館・資料館を見学した。収集してきた資料をフィルム映像資料、文字資料、写真資料など、ジャンル別にリストを作成した。

資料調査の発見として①報道機関で保存されているベトナム戦争期間中に撮影された映像の一部はまだデジタル化されていない、フィルムのままである。今回は報道機関の協力を得て研究対象となるフィルムをデジタル化し、閲覧可能な状態にした。②資料館で保管されている一部のフィルムは、劣化によって既にデジタル化できないものも見られた。フィルム時代のテレビ史研究の緊迫さを実感した。

二年目では、残されているベトナムでの現地調査と、収集してきた資料の分析に取り組んでいきたい。